

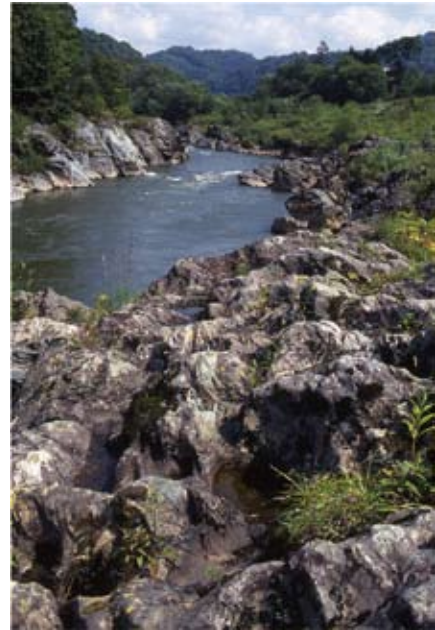
旭川市の指定文化財に

かむいこたん けつぐん
神居古潭おう穴群

があります！（天然記念物）

おう穴とは、ポットホール (pot hole) 又は「かめ穴」とも言います。川底や川岸のかたい岩石の表面にできる比較的大きな円形～楕円形をした穴のことを言います。

そのつくられ方は、次のように考えられています。
…岩石の割れ目があると、川の水によってその部分が他の部分より削られ易くなり窪みができます。そこに小石などが入り込むと、水流によって、岩石の弱い部分がどんどん削られていきます。その時、渦流が発生するのでほぼ円形に削られていきます。小石自体も磨耗して無くなりますが、別の小石がおう穴に流れ込むので円形の窪みは更に大きくなっていきます。これを繰り返すことで出来上がったのが、おう穴となります…。



神居古潭おう穴群

ここ神居古潭峡谷では、おう穴群が、神居大橋（吊り橋）の上流及び下流の全長 1.2km の範囲にわたって7箇所分布し、それぞれの大きさや群の数、分布範囲の広さにおいて、国内の他のおう穴群と遜色なく学術的にも大変重要なものとされており、『神居古潭おう穴群』として旭川市の指定文化財、特に記念物（天然記念物）となっています。

また、これらのおう穴には、アイヌ民族の伝説が残されており、中でも「鬼の足跡」と呼ばれる2つのおう穴は、直径2mと1.5m、深さが5mもある巨大なおう穴です。

※国指定天然記念物には、

八釜の甌穴群（特別天然記念物／愛媛県）、平根崎の波蝕甌穴群（新潟県）、
山科の大桑層化石産地と甌穴（石川県）、飛水峡の甌穴群（岐阜県）
斑島玉石甌穴（長崎県）、耶馬溪猿飛の甌穴群（大分県）
関の尾の甌穴（宮崎県）

があります。

（地質学・岩石学担当学芸員 向井正幸）